

大切畑ダム災害復旧工事の 実施状況について

令和6年(2024年)6月

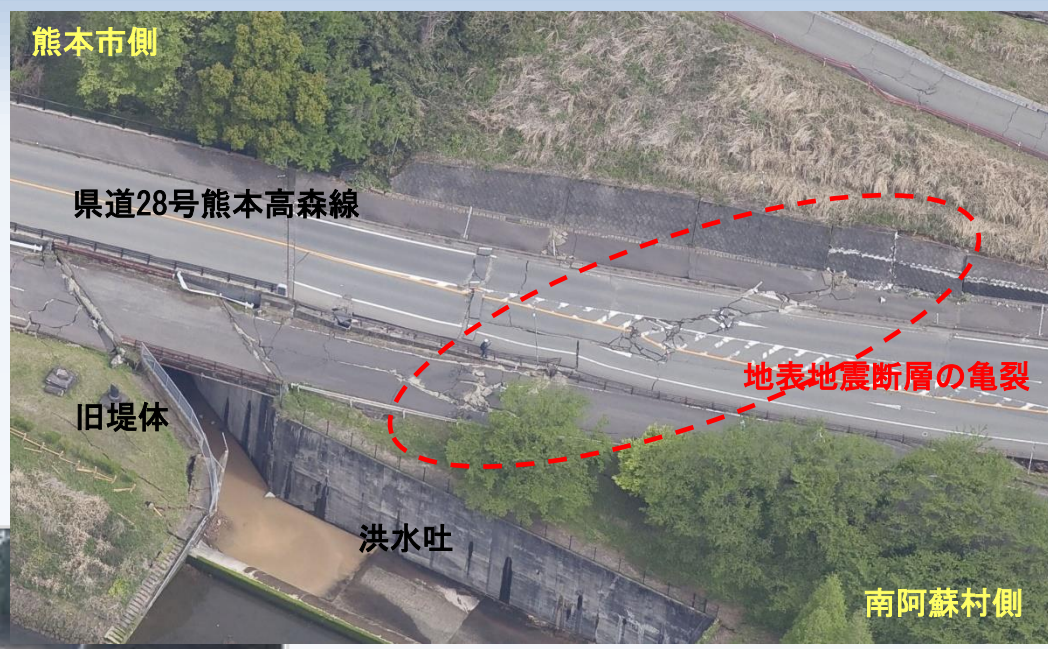
熊本県大切畑ダム復興事務所

大切畑ダム(ため池)の被災状況



熊本地震による大切畑ダムの主な被災状況として、堤体のひび割れ・沈下・洪水吐側壁の損傷、下流水路の埋塞、取水施設・操作施設の転倒、仮排水・取水トンネル等の損傷の被害が発生しました。

県道熊本高森線に出現した地表地震断層



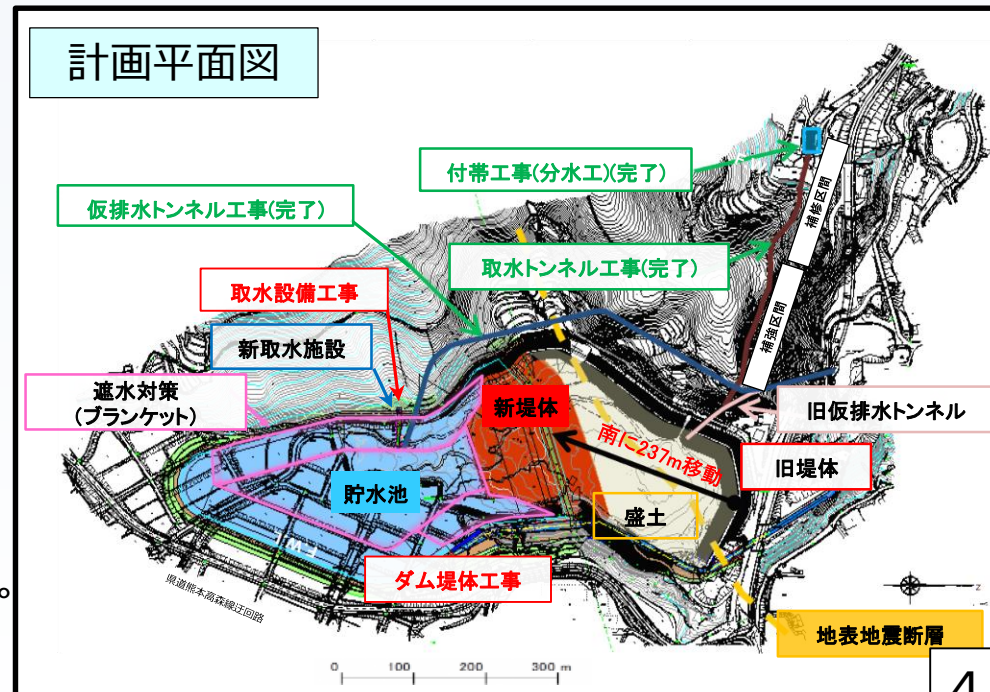
大切畑ダムの概要

- 寛文の頃 (1661～1672年) 肥後藩家老米田監物が小規模の堤を築造※
- 元文元年 (1736年) 大風雨により流失 (約120年後の再築まで取り繕いなし) ※
- 安政2～6年 (1855～1859年) 惣庄屋矢野甚兵衛によって再築※
かんがい面積 117町
(昭和33年度刊 農林省農地局白川水系農業水利実態調査書)
- 昭和28年 (1953年) 6月の集中豪雨で堤体を一部溢流、復旧工事として2m嵩上げ
- 昭和35～39年 (1960～1964年) 県営老朽溜池補強工事
- 昭和45～50年度 (1970～1975年) 高遊原地区県営かんがい排水事業で堤体を4m嵩上げ
受益面積 717ha (田 71ha、畑 646ha)
- 平成28年4月 (2016年4月) 平成28年熊本地震により被災
4月16日 本震 M7.3 震度7 (西原村)
- 平成29年1月 (2017年1月) 災害査定
- 令和元年12月 (2019年12月) 本体工事着工

大切畑ダムの復旧・復興

- 大切畑ダムは被災以前、西原村の田71haと畑108ha、益城町の畑135haを灌漑するとともに、冬場の水を近隣の深迫ダムに送水し、関節受益として菊陽町の畑403haを灌漑していました。
- しかし、熊本地震により堤体が損傷するなどの大きな被害が発生しました。さらに、被災後の調査で堤体とダム湖内に地表地震断層があることが判明しました。
- そこで、熊本県では復旧に迅速取組むため、「大切畑ダム復興事務所」を開所し、復旧に取り組んでいます。
- 令和5年8月には、本堤の盛立を開始し、それに併せて、ダムの安泰・繁栄を祈念する「大切畑ダム復旧工事定礎式」を10月19日に開催しました。
- 現在、令和8年度の供用開始に向け、堤体盛土工、洪水吐工などの工事を実施しています。

◆事業概要◆ (令和6年6月時点)
・農業用ため池復旧工 1箇所
【総事業費】 約145億円
【受益面積】 605.5ha
【関係市町村】 西原村、益城町、菊陽町



仮締切堤工、本堤工(盛立)



遮水材仮置き場



仮排水トンネル新設(完了)



洪水吐工



流入工(完了)



旧取水トンネル復旧(完了)

